

テーマ：家計調査（2008年9月）
～引き続き低調に推移～

発表日：2008年10月31日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

(%)

		実質消費支出 (二人以上世帯)		実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前年差
08	1-3月期	0.6	0.7	▲ 1.7	▲ 1.7	74.2	3.0
	4-6月期	▲ 2.6	▲ 2.6	▲ 3.2	▲ 3.2	74.7	2.5
	7-9月期	▲ 2.3	▲ 2.2	▲ 1.6	▲ 1.6	73.7	▲ 0.8
07	9月	3.2	0.0	0.4	0.8	74.4	4.1
	10月	0.6	0.3	0.0	▲ 0.1	74.4	1.8
	11月	▲ 0.6	▲ 0.5	▲ 2.5	▲ 1.1	73.7	0.8
	12月	2.2	1.6	▲ 3.5	1.4	73.9	2.5
08	1月	3.6	2.5	▲ 2.8	▲ 2.6	77.6	5.1
	2月	0.0	▲ 2.9	▲ 1.1	3.0	72.8	1.8
	3月	▲ 1.6	▲ 2.2	▲ 0.9	0.1	72.3	0.7
	4月	▲ 2.7	▲ 0.7	▲ 5.5	▲ 6.0	76.4	4.4
	5月	▲ 3.2	▲ 0.9	0.2	6.1	72.6	▲ 1.0
	6月	▲ 1.8	1.5	▲ 4.3	▲ 2.8	75.2	2.4
	7月	▲ 0.5	0.9	▲ 3.9	▲ 0.7	75.7	2.6
	8月	▲ 4.0	▲ 3.4	2.2	4.9	71.0	▲ 4.4
	9月	▲ 2.3	1.7	▲ 3.3	▲ 4.8	74.3	▲ 0.1

(出所) 総務省「家計調査報告」

○ 予想は若干上振れ

9月の家計調査実質消費支出（二人以上世帯）は前年比▲2.3%（8月同▲4.0%）とコンセンサス（▲3.9%、レンジ：▲6.0%～▲1.9%）を上回った。季節調整済み実質消費指数の前月比も+1.7%と、前月の落ち込みからやや戻している。また、GDP個人消費の需要側推計値作成に際して控除される品目を取り除き、世帯人員を調整したベースで計算しても前年比+0.4%（8月同▲2.9%）と改善している。

低調な結果に終わった他の消費関連指標（商業販売統計など）と比較すると若干強めの印象である。8月は月末が日曜日で金融機関が休みだったため、通信費等の口座引き落とし日が9月にずれ込んだことが、8月の下振れと9月の上振れに繋がっているのかもしれない。

○ 7-9月期の消費は微増。先行きは引き続き低調な推移を予想

7-9月期のGDPベース個人消費は前期比微増が予想される。8月段階では前期比マイナスもあり得ると筆者は見ていたが、予想を上回った9月の結果を受けて予測値を修正する。需要側推計値が引き続き低調だった一方で、供給側推計値が底堅く推移したとみられる。特に7月に猛暑効果や北京五輪効果で出荷が上向いたことが寄与している。もっとも、猛暑や五輪という押し上げ要因があったにもかかわらず微増という結果は、やはり物足りない。個人消費は引き続き低調に推移しているという評価が妥当だろう。

先行きについても不透明感は強い。今後、景気が一段と落ち込むことを受けて、雇用環境の悪化や賃金下落が予想されることに加え、9月末以降急激に進んだ株安が消費者心理を追加的に押し下げるのが懸念されるなど、消費を取り巻く環境は厳しい。原油価格の下落等を受けて消費者物価指数の上昇率が今

後明確に鈍化し、物価面からの実質所得下押し圧力が和らぐことや、年度末に行われる予定の定額給付金の配布というプラス材料もあるため、個人消費が一段と悪化する事態は避けられると考えるが、やはり今後も低調な推移が続くとみておくのが自然だろう。

